



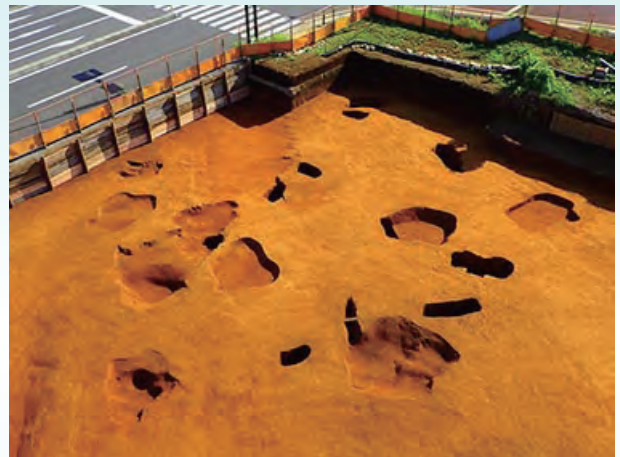
1.調査区全景



2.中世 道状遺構出土 骨



3.弥生時代 竪穴住居址出土 炭化材・土器



4.縄文時代 陥し穴群

●主な調査成果

今年度から調査を開始した11区では、現在の道路と通り筋が重なる近世の道状遺構と、それに並行するかたちで中世の道状遺構(C1道)、溝状遺構が確認されました。C1道からは、馬と思われる骨や歯が複数出土しています。そして、前年度の調査で見つかった居館を囲う溝と主軸方向がほぼ同じであることが分かりました。

また、これらの道によって壊された弥生時代後期の竪穴住居も見つかっています。住居の床面に近い場所から土器や炭化材が出土し、焼土のかたまりも多く見られることから、焼失住居の可能性が考えられます。

縄文時代の遺構については隣接する10区と同様に陥し穴が検出されました。

- 調査期間 2018年8月1日～2022年9月30日
- 事業者 国土交通省関東地方整備局
- 調査原因 一般国道246号線（厚木秦野道路）建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査
- 時代 近世、中世、奈良・平安、古墳～弥生、縄文、旧石器
- 所在地 伊勢原市上粕屋
- 遺跡位置 小田急小田原線伊勢原駅から北西に約3kmの上粕屋扇状地上

